2020年（令和２年度）

小畠病院年報

Kobatake Hospital Annual Report

病　院　長　挨拶

この度2020年度の年報を上梓する運びとなりました。昨年度は新型コロナウイルスという歴史に残るであろう大災害に見舞われました。病院のみならず高齢者施設、学校などでクラスターが発生し、マスク装着の徹底、ソーシャルディスタンス、３密回避といった新しい生活様式が推奨されるようになりました。また、2021年９月までに４度緊急事態宣言が発令され、我々の生活は一変しました。当院では玄関での検温および手指消毒、発熱患者のトリアージ、オンライン面会の実施、環境消毒の徹底、職員のPCR検査など、感染状況を見極めながらあらゆる対策を講じており、クラスターが発生することなく従来どおりの診療を継続できております。ワクチン接種につきましては、福山市のサテライト型接種施設として体制を整え、高齢者をはじめとする一般の方の接種にも積極的に取り組んでいます。

2020年度は５年に１回の病院機能評価更新受審の年で、本来であれば2020年７月に受審予定でしたが、新型コロナウイルスの影響もあり2021年１月に受審することとなりました。審査の結果、前回を上回る評価を頂いて認定を受けることができました。これまで職員一丸となり病院の質向上に務めた結果であると認識しており、これからも一層の質の向上を目指す所存であります。

今回の受審で一番高い評価を受けたのが災害訓練です。平成30年（2018年）７月の豪雨で中国地方の多くの病院が被害を受け、一部の病院は水没するなど甚大な被害に遭いました。当院はすぐ近くを芦田川という大きな川が流れていることもあり、それ以降事業継続計画（BCP）作成に着手し、水害や地震のような自然災害時においても患者さんはもちろん当院職員の安全も確保できるよう、2019年から災害訓練を毎年１回実施しております。実際起こりうる状況をシミュレートして行動し、不足している点、改善を要する点を徹底的に見直すようにしております。病院機能評価機構によりますと、このような取り組みが当院規模の病院で行われていることは非常に稀なケースであるとのことでした。引き続き災害時にも事業継続可能な病院を目指してまいります。

そして2021度は平成27年度（2015年）に導入した電子カルテの更新を控えております。前回は初めての導入ということもあり、計画立案から導入まで非常に苦労しました。導入後は業務の効率化が図れるようになってきております。今回の更新では前回と比べて混乱は少ないと思われますが、より良いシステムを導入できるよう準備を進めているところです。

コロナウイルスワクチン接種については広島県では全人口の64.9％、65歳以上の高齢者については90.0％の方が接種を終え（2021年10月10日現在）、福山・府中地区でも感染は落ち着きつつあります。１日も早く、コロナ前のような活動が安心してできるよう、心より願っております。そして引き続き「地域に望まれる理想の医療を目指して」職員一同努力してまいります。

今後とも引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

病院長　小島康平

病 院 理 念

地域に望まれる理想の医療を目指して

基 本 方 針

1．私たちは患者さんの立場に立ち、安心で
満足できる医療を提供します。

1．私たちは患者さんに心から信頼される
医療人を育成します。

1．私たちは地域に密着した病院としての
機能向上を図ります。

職員心得10句

1．挨拶はすべての始まり社会人

2．職場では笑顔と返事忘れない

3．今日もまた明るく清くヒトとモノ

4．何事も基本にもどる手引きかな

5．旧弊は振り払うべし若者よ

6．いつまでも試行錯誤を恐れない

7．みんなして同じエラーを二度しない

8．今日から必要なことをすぐやろう

9．明日からはやれない訳（わけ）を探さない

10. 枯れるまでいつも心は向上心

病院概要

（2021年４月１日現在）

名称	医療法人社団玄同会　小畠病院
開設	昭和61年3月（創立；昭和40年2月）
所在地	〒720－1142　広島県福山市駅家町大字上山守203番地
	電話：084-976-1351 FAX：084-976-6309
理事長	小畠敬太郎
病院長	小畠廉平
副院長	大口泰助
看護部長	佐野京子
事務局長	矢吹秀介
標榜科	内科・外科・泌尿器科・眼科・脳神経内科・消化器内科・循環器内科・ リハビリテーション科
病床数	一般病床（地域包括ケア病棟入院料1）：52床
	療養病床（療養病棟入院基本料1）：59床
職員数	227人（2021年3月末現在）
建築面積	1,532.34㎡
延床面積	5,371.35㎡
保険医療指定機関 認定施設	各種社会保険療養取扱機関
	国民健康保険療養取扱機関
	老人医療取扱医療機関
	労働災害保険取扱機関
	生活保護指定医療機関
	身体障害者福祉法医療機関
	特定疾患治療取扱医療機関
	原子爆弾被爆者一般医療機関
	結核予防法指定医療機関
	介護保険療養取扱機関
	人間ドック実施医療機関
	公益財団法人日本医療機能評価機構認定病院 【認定第JC637-4号、機能種別版評価項目3rdG:ver.2.0)】
	厚生労働省臨床研修指定病院（施設番号031937）
	日本泌尿器科学会専門医教育施設認定病院（施設登録番号900089）
	日本神経学会専門医教育関連施設（認定番号20070816号）
	広島県難病医療ネットワーク事業協力病院
	広島県地域リハビリテーション協力病院

併設事業所	居宅介護支援事業所こばたけ
	訪問看護ステーションこばたけ
	デイサービスむべやま
	ケアモール芦花 （サービス付き高齢者向け住宅芦花、小規模多機能ホーム芦花）
	ヘルパーステーション芦花
	短期入所療養介護事業所
	短時間通所リハビリテーション
付属施設	小畠病院託児所

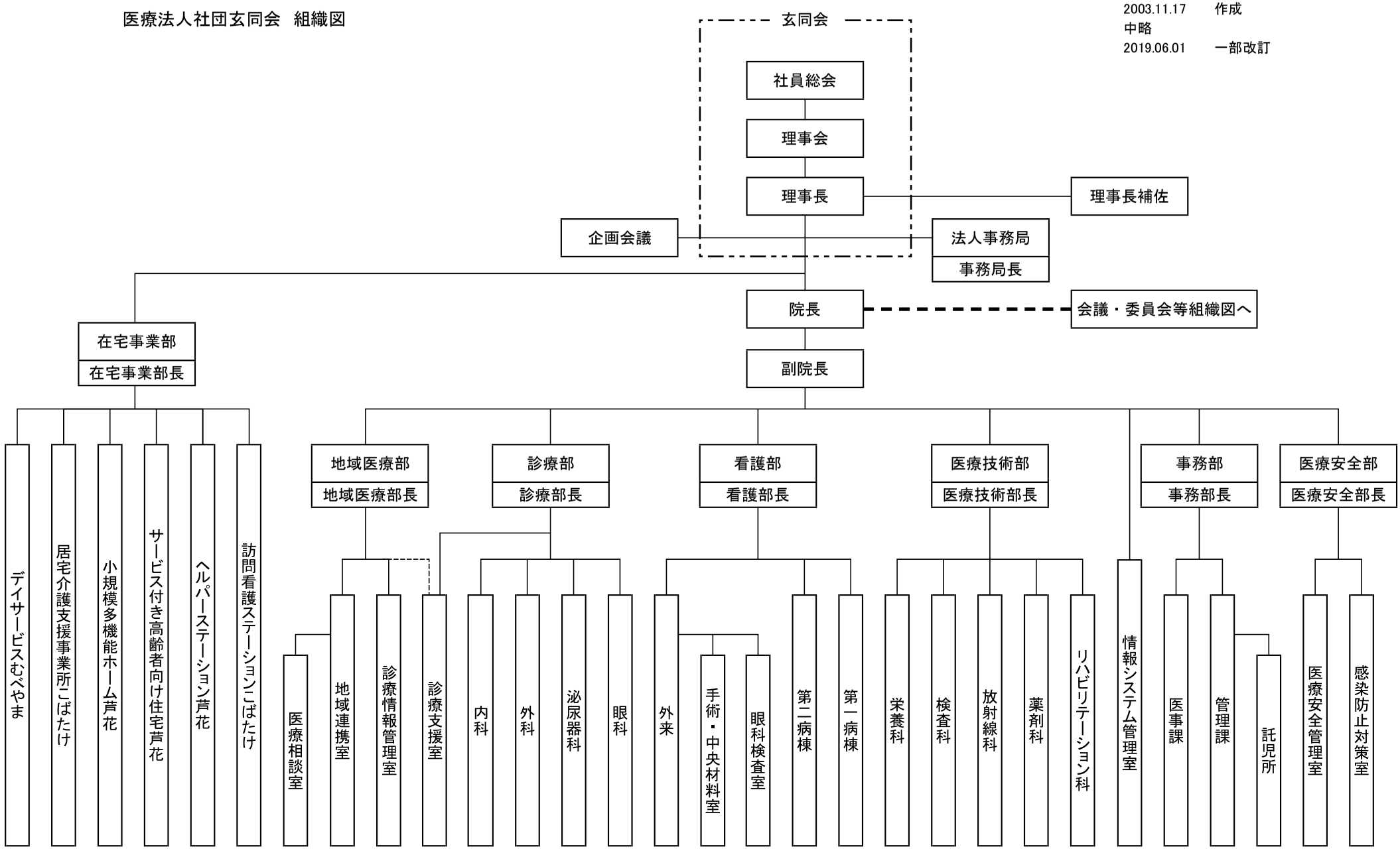
病院沿革

1945年	旧芦品郡宜山村大橋（現福山市駅家町大橋98番地）の旧高田医院を継承し、 小畠医院を開設　　病院長　小畠三喜男
1950年	一次休止
1957年 3 月	小畠内科再開
1965年 2 月	現在地に小畠病院設立　内科・外科（27床）　　病院長　小畠三喜男
1974年 3 月	34床に増設
1974年 4 月	厚生連より運営を委譲され服部診療所開設
1980年11月	泌尿器科標榜　透析治療開始
1982年12月	本館完成　111床に増設
1983年 9 月	神経内科標榜
1986年 3 月	医療法人社団玄同会設立　　理事長　小畠三喜男
1986年 9 月	小畠敬太郎　理事長・病院長に就任
1989年 2 月	胃腸科（現、消化器内科）標榜
1989年 4 月	体外衝撃波結石破砕装置（ESWL）導入
1989年12月	透析治療終了
1992年 6 月	眼科標榜
1992年 9 月	基準看護承認　基本看護1（一般病棟52床）　特例看護1類（老人特例病棟47床）
1992年10月	体外衝撃波結石破砕装置（ESWL）施設承認
1993年 9 月	日本泌尿器科学会専門医研修指定病院に認定される
1993年12月	中館完成
1994年11月	託児所完成
1996年 4 月	第1回病院祭開催
1997年 1 月	服部診療所新改築
1997年 4 月	第2回病院祭開催
1997年 7 月	ホームページ開設
2000年 3 月	東館完成
2001年 4 月	第3回病院祭開催
	院外処方箋開始
2002年 9 月	小畠病院訪問リハビリテーション事業所開設
2003年 3 月	小畠病院居宅介護支援事業所開設
2003年 7 月	広報誌「葦」創刊
2003年10月	厚生労働省臨床研修病院（協力型）に指定される
2004年 4 月	広島県難病医療ネットワーク事業協力病院に指定される
2004年 6 月	本館増築工事完成
	小畠病院デイサービスセンターむべやま完成
2005年 4 月	広島県地域リハビリテーション協力病院に指定される

2005年 8 月	公益社団法人日本医療機能評価機構認定病院に指定される
2006年 5 月	第4回病院祭開催
2006年10月	服部診療所閉院
2007年12月	オーダリングシステムを中心とした医療情報システムの導入
2008年 4 月	地域連携室開設
2008年 7 月	PACS（画像情報システム・フィルムレス化）導入
2010年 8 月	公益財団法人日本医療機能評価機構 認定病院に更新認定される
2010年10月	一般病棟52床（内　亜急性期病床6床）、療養病棟60床の計112床に病床変更承認
2013年 3 月	ケアモール芦花（サービス付き高齢者向け住宅芦花、小規模多機能ホーム芦花）開所
2013年10月	小畠病院訪問看護ステーション開設
2013年11月	亜急性期病床を廃止し、一般病棟52床、療養病棟60床の計112床に病床変更承認
2014年 8 月	循環器内科標榜
2015年 2 月	電子カルテシステムの導入
2015年 8 月	日本医療機能評価機構認定病院に更新・認定される
2016年 4 月	福山市一般二次救急病院群輪番制に参加
2016年11月	一般病床：52床（地域包括ケア病棟）、療養病床：60床（療養病棟）の計112床に病床変更
2017年 3 月	ヘルパーステーション芦花開設（ケアモール芦花大幅増築）
2017年 4 月	一般病床：52床（地域包括ケア病棟）、療養病床：59床（療養病棟）の計111床に病床変更
2017年10月	第5回病院祭開催
2018年 1 月	通所リハビリテーション（デイケア）開設
2018年 3 月	院内託児所新築移転
2018年 8 月	北館完成
2018年10月	訪問看護ステーションこばたけ　神辺サテライトステーション開設（2020年3月閉設）
2019年10月	デイサービスむべやま増改築
2020年 4 月	小畠廉平　病院長に就任

医療法人社団玄同会　組織図

2003.11.17　作成
中略
2019.06.01　一部改訂



内　科

内科部長　**原　睦展**

■概要

内科は初期診療の段階で適切な診察と検査で病因を究明し、早期診断を行い、最善の治療へ結び付けることを常に考え診療をしています。内科の診療対象となる疾患は数多くありますが、当院では一般内科の他、理事長の専門とする脳神経内科、院長による循環器内科・プライマリー医療、原医師による消化器内科に加え、非常勤医師による糖尿病内科および呼吸器内科の専門治療を行っています。

〈スタッフ〉
常勤医師……3名
非常勤医師…8名

■活動実績

2020年度の内科全体の外来患者数は延べ21,629人で、対前年度比5%減でした。（表1）入院では新規入院患者数が652名、延べ入院患者数は29,904人となっています。（表2）
一般病棟の入院診療は、院長・内科医師と毎日交替で回診をし、それに加えて理事長の総回診もあります。また、日々の患者さんの変化に細かく対応するため、コメディカルスタッフも含めたカンファレンスを毎朝行い、診断・治療を進めています。入院症例は肺炎が最も多く、続いて大腸ポリープ、心不全、悪性新生物、睡眠時無呼吸症候群となっています。糖尿病、呼吸器、循環器の各科専門医の在院日には専門医の対診も合わせて行っており、睡眠時無呼吸は神経内科と呼吸器内科で診療しています。

2016年度より参加している福山市一般二次救急病院輪番制では、2020年度は当番回数46回、受け入れ患者数は129名でした。（表3）

在宅医療については、機能強化型在宅療養支援病院として79件の往診、598件の訪問診療を行い、301件の医学総合管理料を算定しました。（表4）

■診療実績・統計

（表1）外来延べ患者数　（単位：人）

	2018年度	2019年度	2020年度
初　診	2,252	2,162	1,922
再　診	21,317	20,683	19,707
合　計	23,569	22,845	21,629

（表2）入院患者数　（単位:人）

	2018年度	2019年度	2020年度
新規入院患者数	618	640	652
延べ入院患者数	30,238	31,133	29,904

（表3）輪番当番日の受入れ状況　（単位：件）

	2020年度												合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
受入数	6	13	9	17	13	10	13	10	9	10	4	15	129
救急搬送	1	5	4	3	6	3	7	6	3	4	1	8	51
ウォークイン	5	8	5	14	7	7	6	4	6	6	3	7	78

輪番当番体制時間帯（18:00~8:00）での受入件数

（表4）在宅関連件数等　　（単位：件）

	2018年度	2019年度	2020年度
延べ往診件数	74	73	79
延べ訪問診療件数	737	512	598
在医総管・施医総管算定件数	363	318	301
在宅看取り件数	12	13	20

脳神経内科

現在脳神経内科の外来診療は専門外来というより、この地域のかかりつけの患者さん達と一緒に一般内科外来の中で行っています。個々の内科医の subspeciality が何であれ初診時には、まず全身を看るべきであると考えています。当科では自覚的に頭痛やめまい、手足のふるえやしびれ、喋りにくい・飲み込みにくい、ふらついたり足がすくんで歩けない、手や足など体の一部が勝手に動いてしまう（不随意運動）、認知症、意識障害やけいれんなど様々な訴えで当院へ来られた患者さんの中から、脳神経疾患を正しくピックアップして的確な診断を付け、適切な治療を受けることができる機会を与えて差しあげたいと思っています。病歴整理係と揶揄されながら患者さんのお話を傾聴し、基本的な身体理学的所見・神経学的所見に加え、必要な補助検査を行い診断を付けています。脳神経内科疾患の症例数を競うのではなく、当院で正しい診断を付けて薬物療法など当院で適切な加療が出来るものは行い、さらに高度な画像検査などによる鑑別診断が必要な時は、連携している専門的医療機関にお願いしています。患者さんの不安や無用な心配に対しては、できるだけわかりやすく説明して安心して頂くように努めています。

一方片頭痛を中心とする頭痛患者さん、パーキンソン病やその関連疾患、脊髄小脳変性症や筋萎縮性側索硬化症（ALS）などの神経難病の診断から長期の follow up を行っています。また認知症の正しい診断とその後の指導などを行っています。また当院は広島県の難病協力病院に指定されており、病初期から進行期・末期まで様々なステージの患者さんに対して、薬物療法、リハビリ、レスパイト入院、合併症の予防や管理などを行っています。

外科的治療が必要になりそうな急性期の脳血管障害や腫瘍性の病気などは、速やかに脳神経外科のある高度医療機関に紹介しています。急性期を過ぎれば当院で引き続きリハビリや二次予防などの治療を引き受けるという役割分担もできています。

（表1）外来の主な神経疾患　　（単位：人）

		2018年度	2019年度	2020年度
パーキンソン病及び パーキンソン関連（※1）	初診	26	28	27
	再診	1,274	1,298	1,212
多系統萎縮症	初診	0	2	0
	再診	26	22	32
筋萎縮性側索硬化症	初診	0	2	1
	再診	15	14	10
脊髄小脳変性症	初診	4	1	4
	再診	418	359	300
ハンチントン病等その他	初診	3	3	0
	再診	127	94	79
認知症	初診	33	35	20
	再診	1,133	1,064	892

※1　パーキンソン病・進行性核上性麻痺・大脳皮質基底核変性症を含む

（表2）頭痛患者の内訳　（単位：人）

			2018年度	2019年度	2020年度
片頭痛		初診	31	27	27
		再診	662	687	587
緊張型頭痛		初診	25	25	31
		再診	1,379	1,334	1,135
群発頭痛		初診	2	0	1
		再診	18	7	0
MOH（※1）	片頭痛	初診	3	4	2
		再診	209	180	157
	緊張型頭痛	初診	0	1	0
		再診	0	0	0

※1　薬物使用過多による頭痛

（表3）新入院の内訳　（単位：人）

	2018年度	2019年度	2020年度
パーキンソン病及び パーキンソン関連（※1）	64	70	57
多系統萎縮症	0	8	4
筋萎縮性側索硬化症	7	7	5
脊髄小脳変性症	6	3	5
ハンチントン病等その他	0	0	0
認知症（※2）	112	107	93

※1　パーキンソン病・進行性核上性麻痺・大脳皮質基底核変性症を含む
※2　認知症を伴うもの

消化器内科

消化器内科では胸やけ、腹痛、嘔吐、便通異常などの主に腹部症状を訴える患者さんを対象として各種検査・治療を行っています。

検査の結果、診断された食道癌、胃癌、肝癌、急性胆のう炎、膵癌、大腸癌、虫垂炎などの疾患は高次病院へ紹介し治療に結び付けています。近年増加傾向にある逆流性食道炎に対する維持療法や、萎縮性胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃癌の原因であるヘリコバクター・ピロリ感染に対して積極的に除菌療法を行っています。また、高次病院からの癌終末期患者さんの紹介にも対応し、在宅や入院での緩和医療を行っています。

消化器内科各検査・各処置件数　（単位：件）

	2018年度	2019年度	2020年度
内視鏡検査			
上部（食道・胃・十二指腸）	1,057	1,033	807
下部	366	404	376
内視鏡処置			
内視鏡的大腸ポリープ切除術	70	84	94
胃瘻造設術	35	29	33
胃瘻交換	121	144	148
腹部超音波検査	503	502	463

循環器内科

循環器内科は常勤医が診療を行っているのに加え、週一回水曜および令和2年度から第1，3土曜午前に岡山大学循環器内科学教室からの非常勤医師派遣を受けながら診療を行っております。当院は高血圧、心不全の高齢患者さんが多く、外来ではそういった患者さんの診察を行い、急性心不全や慢性心不全の急性増悪を認めた場合は入院での加療を行っております。急性冠症候群や明らかな重症弁膜症から来る心不全など、緊急での心臓カテーテル検査や手術が必要な場合は、本人やご家族とも相談の上、主に福山市民病院、福山循環器病院などの専門機関に紹介しております。緊急性は無いものの、後に心臓核医学検査、心臓カテーテル検査や手術といった侵襲的治療が必要と思われた患者さんについても専門機関に紹介しております。反対に専門機関からの継続加療目的にてご紹介いただいた方については、当院でお受けしています。

2020年度は心不全、高血圧、弁膜症の患者さんは前年度と比較して増加傾向でした。心不全については2020年度の内科入院の中で3番目に多く、在宅での増悪をできる限り防げるよう内服治療のみならず生活指導、服薬指導を含めた患者教育を心不全チームで検討し実践してまいりました。2021年度は心不全チームとして他職種で回診を行い、環境も含め議論することによって在宅復帰がスムーズにできるよう、また在宅でも再増悪を防げるよう活動を開始しております。

引き続き当院でできる限りの対応や治療を行って行きたいと考えております。

■診療実績・統計

（単位：人）

		2018年度	2019年度	2020年度
心不全	初診	41	46	79
	再診	2,397	2,171	2,973
不整脈 AF、PSVT含む	初診	13	11	19
	再診	1,469	1,121	1,270
弁膜症 AS、MR含む	初診	2	6	6
	再診	237	232	226
高血圧症	初診	186	118	154
	再診	12,062	10,729	12,249
先天疾患 ASD、VSD含む	初診	0	1	0
	再診	0	1	4

外　科

■概要

外科は2021年4月から休診となっています。

■診療実績

1. 外来延べ患者数　（単位：人）

	2018年度	2019年度	2020年度
初　診	806	681	500
再　診	1,818	2,516	2,364
合　計	2,624	3,197	2,864

2. 延べ入院患者数　（単位：人）

	2018年度	2019年度	2020年度
新規入院患者数	95	117	64
延べ入院患者数	1,815	2,266	1,481

3. 手術件数　（単位：件）

手術症例	2018年度	2019年度	2020年度
鼠径ヘルニア根治術	19	21	10
大腿ヘルニア根治術	1	0	0
甲状腺切除術	15	24	8
副甲状腺切除術	4	10	15
頚部リンパ節郭清	0	2	2
頚部リンパ節生検	0	1	0
外痔核血栓摘出術	1	0	0
経肛門的ポリープ切除術	1	0	0
ひょう疽手術	0	0	0
アテローム切除術	0	0	0
大腿腫瘤切除術	0	0	0
背部皮下腫瘤切除術	0	0	0
粉瘤切除術	1	3	0
脂肪腫摘出術	0	1	0
疣贅切除術	0	0	0
ポケット切回開術	0	0	0
抜爪術	0	0	0
気管切開術	0	1	2
CVポート挿入留置	2	2	3
合　　計	44	65	40

4. 業績等

学会等	演題	発表者
第120回日本外科学会	甲状腺原発悪性リンパ腫でのサイログロブリン術前測定の意義	和久利彦
第32回日本内分泌外科学会総会	甲状腺原発MALTリンパ腫と多発性微小乳頭癌が共存した一例	和久利彦

泌尿器科

泌尿器科部長　**大口　泰助**

■概要

泌尿器科は泌尿器科専門医・指導医である常勤医師2名と非常勤医師とで診療にあたっています。また、日本泌尿器科学会教育施設であり、研修医の受け入れも随時行なっています。2020年度の外来患者数は延べ15,399人、新規入院患者数は596人でした。入院症例の内訳では結石が236例で最も多く、全体の39.6% を占めています。これからも地域における結石治療により積極的に取り組んでいきたいと考えています。

〈スタッフ〉　常勤医師…2名、非常勤医師…2名

■診療実績・統計

1. 外来患者数　（単位：人）

	2018年度	2019年度	2020年度
初　診	2,394	2,486	2,332
再　診	15,203	14,207	13,067
合　計	17,597	16,693	15,399

2. 入院患者数　（単位：人）

		2018年度	2019年度	2020年度
新規入院患者数	男性	470	428	447
	女性	135	121	149
	合計	605	549	596
平均年齢		69.31歳	69.37歳	69.43歳
平均在院日数		7.90日	8.16日	9.01日

3. 入院総数の主な内訳　（単位：人）

		2018年度	2019年度	2020年度
悪性腫瘍	前立腺癌	69	61	48
	膀胱癌	68	51	101
	腎盂・尿管癌	6	5	8
	腎癌	0	1	0
結　石	腎・尿管	219	218	211
	膀胱・尿道	24	24	24
炎　症	腎盂腎炎	47	49	53
	前立腺炎	16	15	9
	精巣上体炎	2	6	3
	その他	4	6	6
良性腫瘍	前立腺肥大症	89	61	73
	その他	7	6	4
その他		54	46	56
合　計		605	549	596

4. 手術総数の主な内訳

（単位：件）

		2018年度	2019年度	2020年度
結石手術	体外衝撃波による結石破砕術（ESWL）	270	209	187
	経尿道的尿路結石摘出術（TUL）	80	95	108
	経皮的尿路結石摘出術（PNL）	5	5	5
	経尿道的膀胱尿道結石摘出術	32	23	29
前立腺肥大症	経尿道的前立腺切除術（TUR-P）	26	25	21
	メモカス留置	3	1	1
	被膜下前立腺摘出術	0	0	1
悪性腫瘍手術	後腹膜下腎尿管全摘出術	0	3	1
	経尿道的膀胱腫瘍切除術（TUR-BT）	43	43	67
	膀胱生検	24	8	6
前立腺生検		106	73	86
その他		62	47	45
合　　計		651	532	557

眼　科

眼科部長　**瀧川　泰**

■概要

当眼科は1992年6月の開設以来、28年目を迎えました。白内障や緑内障、加齢黄斑変性等の眼底疾患の診断・治療、コンタクトレンズや眼鏡の処方などを行っております。糖尿病や高血圧などの内科的疾患から目に症状がくることがあるため、内科と連携を図り、早期発見、診断・治療に努めております。

〈スタッフ〉

常勤医師……1名

■診療実績・統計

1．外来延べ患者数　（単位：人）

	2018年度	2019年度	2020年度
初　診	2,361	2,555	2,206
再　診	6,335	6,128	5,504
合　計	8,696	8,683	7,710

2．各検査件数　（単位：件）

	2018年度	2019年度	2020年度
矯正視力	7,392	7,510	6,645
調節	117	100	89
負荷後屈折	19	28	29
眼圧	6,098	6,084	5,492
静的視野（オクトパス）	321	385	359
動的視野（GP）	8	8	7
精密眼底検査（片側）	11,511	11,749	10,460
眼底カメラ撮影	58	98	70
眼底三次元画像解析（OCT）	1,374	1,361	1,265
細隙灯顕微鏡検査	6,845	6,948	6,078
眼鏡処方	201	200	227
コンタクトレンズ処方	2,009	2,006	1,783